

令和5年度 第1回富田林市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録（要約版）

日 時：令和5年6月9日（金）14：00～15：30

場 所：富田林市役所 4階 401会議室

出席者：委員13名

事務局：6名

次第：◇関係課ヒアリングについて

◇富田林市文化財保存活用地域計画骨子（案）について

◇今後の予定

資料1：「課題と今後の基本的な方向性、措置」（骨子）（案）

資料2：地域計画 第6章～第9章（案）

◇開催確認

- ・委員16人中、13人が出席、過半数の出席を確認し、会議開催要件を満たしていることを確認

◇関係課ヒアリングについて

- ・事務局より PowerPoint 資料を用いて関係課ヒアリングについてについて説明

【A委員】

図書館にもヒアリングされましたか。貸出履歴で、歴史的な書籍がどれだけ借りられているかどうかをデータとして持っていてもいいかなと思います。

前回の委員会で、博物館が必要だという話がありましたが、現在史料類はどこに保管されていますか。

【事務局】

生涯学習課にはヒアリングしていますが、図書館や公民館等にはしていないので、ご意見を参考にして担当課と話したいと思います。

史料類について主に古文書類ですが、従来は市役所本庁の書庫に保管していましたが、秋からの庁舎建て替え工事に伴い、一時的に移転しています。寺内町で民家の寄贈を受けていて、そこに棚を組んで収蔵しています。空調設備は

ありませんが、温湿度管理のセンサーを備えています。

【B委員】

図書館で富田林市に関する郷土書物は禁帯出扱いになっていますが、貸し出せるものがあったらいいと思います。どの図書館も揃えているか確認してもらいたいです。

各公民館で様々なクラブ活動がされていますが、その中には歴史文化に関わるものもかなりあるように思います。計画の中でも有効な協力がいただけるのではないかと強く感じます。熱心な人が多いです。歴史文化に直接関わらなくても絵画や写真なども含めて、力になると思うのでぜひ触れてほしいです。

【事務局】

公民館のクラブ活動の実態は把握できていませんので、実態把握したうえで、協力いただけることがあれば協力いただきたいと思います。

郷土資料・歴史資料については確かにそうですが、蔵書に限りがあるものについては禁帯出になっていると思います。河内長野市では電子図書も導入されていますし、今後はデータでの公開も考えられます。富田林市史の本文編については既に文化財課で電子公開しています。奈良文化財研究所では、市文化財課が発行した市内の発掘調査報告書が全冊電子化されています。今後図書館に期待するところは大きいと思うので、話を聞きながら方向性については検討したいと思います。

【会長】

市民の皆さんにもこういう形での公開があることを情報共有されるといいと思います。

◇富田林市文化財保存活用地域計画骨子（案）について

- ・事務局より、資料1及び資料2を用いて富田林市文化財保存活用地域計画骨子（案）について説明

【A委員】

「調査」や「継承」など5つの項目を挙げていますが、「保存」はいらないでしょうか。

「発信」は市民を巻き込む必要があると思うので、取組主体の市民にたくさん丸がつく方がいいと思います。

【事務局】

「発信」は市民を巻き込んで色んな発信をしたいと思います。

「保存」については、それぞれの項目に関わってくると考えています。地域計画の根幹になるところだと思っています。個々に取り上げるのではなく、基本的な考えとして持っています。

【C委員】

「楠木氏と楠公顕彰」で、龍泉寺は楠公とあまり関わりがありません。庭園も平安時代末、重要文化財の建物も中に入っているものが建治なので、楠公が出てくる状態ではありません。誤った分類に感じます。

【B委員】

全く同感です。名称が楠公顕彰となっていることも違和感があります。楠公を顕彰しようというイメージを与えるようなことは、戦前ではないのでタイトルとしてよくないと思います。楠公顕彰遺跡はありますが、楠公の遺跡は1つもないと思います。楠公庵も伝承に基づいた遺跡であって、ほとんど根拠がないと思います。このテーマで1つ取り上げること自体、楠公を無理に関わらせているように感じます。

【会長】

再考の必要性は私もあるのではないかと思います。

【事務局】

叩き台として提案させていただきました。龍泉寺は楠公と直接関係ないのかもしれませんが、時代の背景としまして、嶽山城の別名が龍泉寺城と書かれているなど、同じ山の中にある寺と城跡なので、無関係ではないと考えています。

【C委員】

嶽山城がよく出てくるのは『大乘院寺社雑事記』や『多聞院日記』なので、楠公さんの後の戦国時代の遺跡です。あえて楠公さんの問題を解くとするなら、嶽山で戦ったかどうかは知らないですが、伽藍が燃やされたということになるのかもしれませんが。ただ、伽藍が消失したのは『多聞院日記』か何かで「嶽山ほぼ全焼する」という記述があるので、楠公さんのあとの問題だと思います。河内長野市は楠公さんとの関わりが強いですが、富田林の場合は楠公さんと結びつけるのはどうなのかと思います。楠公さんが存在していた以前に龍泉寺はあったので、楠公さんの時代には当然存在していますが、楠公さんによって持

ち上げられたというようなことはなかったと思います。あえて楠公さんを取り上げる必要はないと思います。

【D委員】

1番の「古墳と古代寺院跡」について、古墳と古代寺院という形で結びつけて、新堂廃寺、お亀石古墳などとすると、終末期古墳しか見えてこないです。富田林には、古市古墳群ができる前から、真名井古墳をはじめとして、連綿として古墳が築かれています。この表現では古墳全体を捉えきれていないと思います。

2番の「楠木氏と楠公顕彰」については、先生方がおっしゃるとおりです。楠公顕彰というのは初めて見ました。富田林には楠公城砦群という形でいくつもあり、楠公がどういう戦略で砦を築いたかというのには理由があります。副タイトルの楠木正成について、楠木正成の時代と正儀の時代は全然違います。畠山氏の内紛も引き続いておこなっているなので、2番の捉え方も少しどうかと思います。

4番の「霊場参拝」については、西国三十三度行者や満願供養塔のことを言われていると思いますが、霊場参拝と謳うのであればこの範囲に留めず、東高野街道を通過して高野山、大峰山山上のお堂、錦織には大峰山の満願記念塔もあります。民衆に浸透したような霊場もあるので、そういうのも網羅した形での表現がよいと思います。民衆信仰が色濃く残っているところで塞ノ神などがたくさん残っています。市民が見られるものがたくさんあるので、そういうことも鑑みた方がいいのかなと思います。

3番の「富田林寺内町」については、一番のスポットであることは確かですが、大伴道場や喜志の宮でも寺内町のように形成するようなことがあるなど、周りにもたくさんあります。スポットを当てるには難しいと思いますが、申し上げたようなことも考えていただきたいと思います。

【C委員】

山城が残っていることは事実なので、山城群を対象にしてはどうでしょうか。廿山城跡や嶽山城跡など城跡はたくさん残っているので、城跡群を残すという意味で一括りにされてはどうかと思います。城跡群をタイトルにすると、楠木氏の城も入ってきます。

楠公顕彰について、河内長野の場合だと重要な課題だと思いますが、ここではあまり重要な課題にはならないと思います。

【事務局】

1番「古墳と古代寺院跡」について、画面に出ているものだとそうなってしまいますが、配布資料の第9章で関連文化財群について記していますが、様々な古墳があって、前期から連綿と築かれてきて、最後にお亀石古墳や関連する新堂廃寺というような、古墳すべてを取り込む形で考えています。タイトルの付け方は一考する必要があるかもしれません。

3番「富田林寺内町」についても、喜志の宮、現在の美具久留御魂神社や道場があった大伴などがあります。

4番「霊場参拝」についても、大峰山のことも把握しています。顕著に見えているのは西国三十三所だと感じていますので、そういうことも含めて取り上げたいと思います。

2番「楠木氏と楠公顕彰」について、先生方が言われていることはごもっともということもあるのですが、タイトルについてもいかがなものかと作りながらも思っているのですが、楠木氏の山城については中々位置が確定できない状況です。金胎寺と嶽山、楠木氏と直接関係があるか分かりませんが山中田の篝山には城が確実にあったと思います。楠公十七城と言われている城の位置は中々確定できない状況です。確実に言えるのは金胎寺ぐらいかと思います。他の甘山や毛人谷については城の痕跡が今のところ分からない状況です。楠公顕彰については、富田林駅前の里程標や楠妣庵があります。

幕末から盛んになってきたと言われる楠公顕彰の動き、尊王攘夷や皇国史観の中でどういうふうに関わってきたのかという日の当たりにくい部分を文化財群として見せられないかということでひとまとめにしました。歴史的には、龍泉寺が元々関係ないということは分かっていますが、何かのグループでまとまるならこういう形がいいのではないかと考えた次第です。

【B委員】

それでは楠公顕彰ではなく顕彰遺跡ですね。そう言われる遺跡は、駅前の石柱以外にありますか。

【事務局】

配布資料には載せていないですが、例えば、嬉の腰神神社、別井の慈眼寺、美具久留御魂神社があります。新しいものだと、富田林から千早に向かう楠公通りがあります。

【B委員】

楠公顕彰のものはすべて近代のものですが、文化財群として設定できるものか。それよりは美具久留御魂神社や佐備神社・錦織神社など古代からの由緒を持つ神社や龍泉寺などの古代寺院のほうが重要な文化財群ではないか。楠公顕彰には無理があるように思います。

【D委員】

聖音寺の矢疵観音や慈眼寺の軍壇目鏡といった、江戸領主の大久保氏のお墨付きのものがありますが、楠木正成の伝承的な部分を民衆が称えたようなものです。楠公の支城群は、場所がはっきりと分かっていなくても、伝承で城砦群と呼ばれていた篝山などがあります。楠公の大きな作戦が2つありましたので、そのへんが分かりやすいと思います。楠公顕彰と言うことで分かりにくくしていると思います。暗い過去は市としてあまり取り上げない方がいいと思います。

【E委員】

計画案を読んで、富田林市の保存・活用に関する課題と方向性を網羅的にうまく整理されていますが、印象として計画書として固いと思いました。計画の位置づけですが、行政が施策を進めるうえでの根拠となる計画という位置づけはいいですが、せっきくの機会なので、文化財の保存・活用に市民に関わってもらうような仕立てにしてもいいと思います。

措置について、印象としてすべてこれからやるように思えてしまいます。既に市民が取り組んでいることもあると思います。市民が取り組んでいることを計画に位置付ければ、市民を巻き込むことに繋がっていくと思います。市民が手にとって自分も参画したいと思えるような計画書にしてほしいです。

【事務局】

市内でウォーキングやガイドなどボランティアでされていることがたくさんあるので、そういうことを書きたいと思います。

【F委員】

「霊場参拝」で、他のところも対象にしてはどうかという話がありましたが、市内に残っているものから霊場を見たものだけなのではないでしょうか。向こうの霊場に行ってみると、現在の富田林市内の人たちがお参りした痕跡が残っています。例えば、高野山に行くと、錦郡や板持の人が集まって石塔を建てたという碑文が残っています。具体的に富田林の地名が出てくるので、そういうものも参考例でいいので探しながらいくと、こっちから向こうだけではなく、向こうにも

あるということがあります。その辺の視野はどう定めていますか。

【事務局】

他地域にも富田林の地名が出てくる石造物があるのは知っていますが、富田林市の地域計画なので、地域計画に入れ込むのは難しいと思います。今後展開する何らかの事業でみていかないといけないと考えます。

【D委員】

課題について、富田林の欠点や他地域と比べて至らない点が正確に書かれています。課題をよく分析されていると思います。今後、それをどのように活用していくかということで、収蔵施設や文化財を市民に見せるような施設、市史の後の紀要などはあまり出ていません。市民が資料を見る際は、大学に行って書庫から出してくるわけにはいかないので、大体、各市の市史を見ますが、大阪狭山市や河内長野市、羽曳野市、藤井寺市などは富田林市に比べてはるかに進んでいます。大阪狭山市の市史は本編がカラーで発行されています。富田林は遅れている部分があります。

市民とともに歩んでいくという意味で、市民とともに色んなことを吸い上げるといのがあまり出ていないのが残念です。

【事務局】

市史について、事業着手が昭和44年と非常に古く、最終の第3巻本文編近代近世は平成16年刊行で、50年近くかかっている、内容が古くなっています。また、断片的にしか残っていませんが、当時の市史編さんの時に集められた資料を見ると、民俗編を作るような動きがあったようですが、実現できていません。

大阪狭山市は市制施行された後から始められて8巻出ており、現在も事業中で、民俗編もあってうらやましい状況です。これから努力していきたいです。

【B委員】

市史刊行について、史料編が2冊しかありません。これは決定的な不足だと思います。どこの市史も史料編の方が圧倒的なボリュームです。まず史料編を充実してほしいです。それは将来100年200年にわたって変わらないものです。本文編はその後でもいいのではないかと思います。

古文書など史料の公開について、デジタル化と書かれています。デジタル化する前に、特に古文書についてはマイクロフィルムに撮っておくことが最も大事だと思います。デジタルは機器の変化などで将来を保障できないと思いま

す。古文書の保存でベストなのは世界的にもマイクロフィルムになっていると思います。マイクロフィルムは10年ぐらいで劣化していきますが、更新してもらうことは簡単にできます。古文書については、マイクロフィルムを撮って、マイクロフィルムをデジタル化するのがいいと思います。デジタル化という言葉がよく出ていて、それ自体はとてもいいことですが、実物を実感や体験するといったことをデジタル化で間に合わせるといようなことになってしまわないようにお願いしたいです。モノ自体を体験できることが何よりも大事だと思います。それ抜きにデジタルだけでとってしまわないようにお願いしたいです。

富田林のかつての二大産業の木綿や酒造についても全くありません。綿摘みや糸繰りなど体験できる場所が大事だと思います。酒造であってもそうです。杉山家住宅に酒造井戸がありますが、井戸を直して、釣瓶で井戸の水を汲む体験というのもおもしろいと思います。体験できることは、来られる人や子供にとって貴重なことだと思います。デジタル化はとても賛成ですが、そちらだけに寄りかからないように願います。

【会長】

地域計画の策定を機に色んな意見が出てきました。地域計画に含む含まないは別として、富田林市として不足しているところを新たに組み込んでもおもしろいと思いますので、今後の活用に使ってほしいと思います。4つの関連文化財群の組み直しについてはどのようにしますか。

【事務局】

今回いただいたご意見を参考にして、適切な表題を考えて、関連文化財群の歴史的文化遺産の追加や削減をしていきたいと思います。基本的にはこの4つにしたいと思います。2番「楠木氏と楠公顕彰」については再考の余地があると思います。

【会長】

事務局としてはこれを基本にして再考されるということですが、その方向でよいでしょうか。また書面で意見を伺うこともできます。

【事務局】

来週いっぱいまでを目途にメールをいただけたら、そのご意見を参考にしたいと思います。次回は8月終わりぐらいに開催できればと思っていますので、その時に改めて示せれると思います。

【A委員】

記述してくださいというわけではありませんが、関連文化財群にあがってこない文化財についても考えていかないと思います。計画書にストーリーを載せるとそれに入ってこない文化財がおざなりになってしまう印象を受けますので、気にする必要があるかと思います。寺内町でお酒を造っていた歴史があります。今は史料がないけど歴史としてあるものを継承していくようなことが重要だと思います。例えば、酒蔵や木綿など、計画書の中にそういう記述をすることは必要だと思います。

【会長】

木綿のことや杉山家の井戸水について知りませんでした。新たな興味を持つ人が出てくるとと思います。

【E委員】

第9章の保存・活用の推進体制で気になったことですが、色んな取り組みを推進していくなかで進行管理はどのようにされていきますか。

【事務局】

今回、策定協議会という形で開催していますが、策定後も進行管理するための委員会を設置する予定です。その場で報告する予定で、時期がきたら地域計画の見直しをすることを考えています。

【E委員】

他都市の計画では事業カルテを作っていて、定期的に活動のレベルを1～5で把握されています。最終的に達成度がどの程度か評価する必要があると思います。推進体制だけでなく、各事業をどのように評価するか、今から検討されるといいと思います。

【会長】

今回の意見を受けて、事務局で再考・修正をお願いします。

◇今後の予定についての報告

- ・事務局より今後の予定について説明

【D委員】

富田林市文化財保護条例が制定されて4年ぐらい経ちましたが、認定されているものが少ないです。1年間で1つもない年もあります。富田林には廃寺になっている寺で古い仏像があり、場合によっては平安時代、新堂の起源に関わる宝海寺の不動明王坐像もあります。そういう貴重なものがたくさんあります。そういう掘り起こしはどのようにされていますか。宝海寺の不動明王坐像は、現在、新道大師堂にあります。話を聞くと、価値があることは分かっていますが市の文化財になった時にセキュリティが心配だということを書いていました。認定されるにあたってのセットとして、保全とセキュリティについても考えてほしいです。

【事務局】

指定のことについては今度の文化財保護審議会でお話したいと思います。

以上